

論文

高齢期における北海道移住の意味

Studies on the migration to Hokkaido in elderly

大橋 美幸

OHASHI Miyuki

抄録

高齢期の移住先として北海道を選択する理由と意義をまとめた。

移住希望者調査の二次分析では、移住後に希望するライフスタイルは自然志向であり、利便性が良くない中で出身地へのUターンを含め、移住HPがきっかけとなり、自治体の移住支援制度が後押しをして北海道への移住が選択されていた。

同様に、移住者のインタビュー及びインタビュー記事の分析からは、出身地であったり、雄大な風景や豊かな自然、夏の涼しさ等の〔北海道に特徴的な気候、自然、風土や習慣〕、食を楽しみ、家庭菜園や農業を楽しむ等の〔スローライフ〕が移住先の選択につながっていた。加えて利便性、仕事等の〔移住後の暮らしやすさ〕が移住先の選択で考慮されていた。地域おこし協力隊等の〔地域おこし〕が北海道移住のきっかけになり、移住時の訪問、家や土地の取得等の〔移住者支援がある〕ことが移住につながっていた。

キーワード：UIターン、高齢者、北海道

1. はじめに

本稿は、高齢期の移住先として北海道を選択する理由と意義を把握することを目的としている。

移住希望者に候補地を尋ねるアンケート調査が行われており、北海道は一定程度の人気を集めている。北海道を候補地として考慮する条件として自然や食べ物等があがり、不安要因として冬の寒さ等があがっている。高齢期の移住先としても同様であり、これらの調査を概括する。

加えて、移住希望者調査の二次分析を行う。中高年齢者に限って再集計を行い、北海道をはじめ移住候補地ごとに移住理由等の比較を行う。

また、実際に北海道へ移住した人に対するアンケートやインタビューが行われており、移住のきっかけや移住後の暮らし等が紹介されている。ただし、これらの移住者調査は、就労年齢層を対象としていることが多く、高齢者は比較的少ない。高齢期の北海道移住者にインタビューを行うとともに、北海道各地の高齢期の移住者インタビュー記事を集め、結果をまとめる。

高齢期の移住先として北海道を選択する意味を分析する。

2. 移住先として北海道を選択する理由等に関する調査の概括

移住希望者の候補地は、移住・交流推進機構（2015）によれば、1位長野県、2位沖縄県、3位がほぼ同じ票数で岡山県等と並んで北海道があがっている。オウチーノ（2015a）によれば首都圏在住の50～64歳の就労者が退職後に住みたい先は1位東京都、2位沖縄県、3位神奈川県に次いで、4位北海道、5位長野県である。インテージリサーチ（2015）によれば東京圏の移住希望者の候補先は1位沖縄県、2位北海道、3位長野県である。北海道は移住先として一定程度の人気を集めているように見える。他方で、ふるさと回帰センター（2017）によれば移住希望者の候補地は1位山梨県、2位長野県、3位静岡県で暖かい地方となっている。

高齢者に限って見ると、日本創生会議（2015）が高齢者移住を受け入れる余力があるとした41地域から、首都圏の高齢者が選んだ移住希望先は、1位は沖縄県宮古島市、2位は石川県金沢市、3位は岡山県岡山市、少し離れて10位が北海道函館市であった（オウチーノ2015b）。

移住先を選ぶ条件を見ると、内閣府（2014）によれば、東京圏在住の移住希望

者の理由は、Uターンとともに、スローライフ、食べ物や水、空気がおいしいである。これらの点から北海道は評価されそうだが、一方で、移住時に不安な点として就職、利便性、移住先の人間関係、移住時に重視する点として生活コスト、利便性、仕事、医療の充実等があたり、北海道への移住を考える上で、利便性等の位置づけが気になるところである。

北海道の調査（2009）によれば、首都圏・中部圏・関西圏の40歳以上の移住希望者の4人に1人が北海道を候補地にしている。北海道へのイメージは自然、食べ物、独自の景観・風土、夏の涼しさ、安価な住宅や土地・生活費であるものの、冬の寒さや雪が不安要因になっており、移住にあたって自動車、暖房機器等の購入が必要と考えられている。

移住先として札幌、函館、旭川の名前があがっていた。移住先は、最近の東京都在住者に対する調査でも同様に、札幌、函館近郊、小樽近郊等があがっている（北海道2017）。

また、UJIターンを見ると、東京都在住者のうち北海道に居住経験がある人で北海道への移住を検討する人が多くなっている（北海道2017）。

実際に北海道へ移住した人の調査（北海道2009）では、移住のきっかけは「趣味・余暇活動に適した場所に住みたい」が半数であり、移住の決め手となったのは自然、独特の景観・風景、夏の涼しさ、安価な土地等であった。移住候補地は北海道のみであったが6割である。競合地は長野県等であった。移住前に14%がちょっと暮らし体験をしている。移住に伴う購入品は、暖房機器、自動車、冷蔵庫等となっており、4割が土地を購入して一戸建住宅を建てていた。移住後の暮らしに9割が満足しており、満足度が高いのは自然、景観、夏の涼しさ、食べ物、花粉症等の軽減であり、逆に低いのは買物、交通アクセス、医療・福祉、仕事である。

3. 高齢期の北海道移住希望者の分析

3.1 調査方法

「地方移住に関するアンケート調査2013（三菱総合研究所）」の二次分析を行った。本調査は、スクリーニング調査に基づいて、東京圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）、名古屋圏（岐阜県、愛知県、三重県）、大阪圏（京都府、大阪府、

兵庫県、奈良県) 在住者で転居・移住を予定ないし希望している人に対する調査である。回収数は3567人。

その中から東京圏在住の50歳以上の人に限り、かつ50人以上が移住希望先としてあげている人気の移住先の都道府県5つを取り上げて、北海道と千葉県、長野県、静岡県、沖縄県の比較を行った。

調査項目は、回答者基本属性(性別、年齢、居住地、家族構成、職業、世帯年収)、移住の理由、移住後のライフスタイル、移住後の年収予測、移住先を探す決め手、移住先の情報収集先、定住意識等を取り上げて再集計を行った。

3.2 回答者基本属性

移住希望先ごとの希望者数は、北海道54人、千葉県63人、長野県64人、静岡県71人、沖縄県77人である。

性別は、男性198人(60.2%)、女性131人(39.8%)。6割が男性である。移住希望先によって差は見られない【表3.1】。

表3.1 回答者基本属性(性別)

		性別		合計
		男性	女性	
移住希望先	北海道	30 55.6%	24 44.4%	54 100.0%
	千葉県	43 68.3%	20 31.7%	63 100.0%
	長野県	41 64.1%	23 35.9%	64 100.0%
	静岡県	42 59.2%	29 40.8%	71 100.0%
	沖縄県	42 54.5%	35 45.5%	77 100.0%
合計		198 60.2%	131 39.8%	329 100.0%

年代は50～54歳70人（21.3%）、55～59歳71人（21.6%）、60～64歳83人（25.2%）、65～69歳68人（20.7%）、70歳以上37人（11.2%）である。60～64歳が1/4であり、50～54歳、55～59歳、65～69歳はそれぞれ2割、70歳以上が1割である。移住希望先によって差は見られない【表3.2】。

表3.2 回答者基本属性(年代)

		年代					合計
		50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	
移住希望先	北海道	12 22.2%	11 20.4%	14 25.9%	11 20.4%	6 11.1%	54 100.0%
	千葉県	11 17.5%	14 22.2%	15 23.8%	15 23.8%	8 12.7%	63 100.0%
	長野県	13 20.3%	13 20.3%	13 20.3%	13 20.3%	12 18.8%	64 100.0%
	静岡県	14 19.7%	11 15.5%	20 28.2%	20 28.2%	6 8.5%	71 100.0%
	沖縄県	20 26.0%	22 28.6%	21 27.3%	9 11.7%	5 6.5%	77 100.0%
合計		70 21.3%	71 21.6%	83 25.2%	68 20.7%	37 11.2%	329 100.0%

職業は、自営業・農林漁業36人（10.9%）、会社員96人（29.2%）、パート・アルバイト（シルバー人材センター含む）59人（17.9%）、その他11人（3.3%）、無職127人（38.6%）。無職が4割、会社員が3割である。移住希望先によって差は見られない【表3.3】。

家族構成は、「ひとり暮らし」53人（16.1%）、「夫婦のみ」143人（43.5%）、「子どもと同居」109人（33.1%）、「その他」24人（7.3%）。「夫婦のみ」が4割、「子どもと同居」が3割である。移住希望先によって差は見られない【表3.4】。

移住後に想定する家族構成は、「ひとり暮らし」69人（21.0%）、「夫婦のみ」211人（64.1%）、「子どもと同居」25人（7.6%）、「その他」24人（7.3%）である。「夫婦のみ」が6割、「ひとり暮らし」が2割である。

現在の「ひとり暮らし」は「ひとり暮らし」を続ける人が多いが、一部に単身赴任等からの「夫婦のみ」に代わる人がいる。「夫婦のみ」も同様に、現在の「夫

表3.3 回答者基本属性（職業）

		職業					合計
		自営業・ 農林漁業	会社員	パート、 アルバイト （シル バー人材 センター 含む）	その他	無職	
移住希 望先	北海道	6 11.1%	14 25.9%	9 16.7%	2 3.7%	23 42.6%	54 100.0%
	千葉県	6 9.5%	22 34.9%	8 12.7%	3 4.8%	24 38.1%	63 100.0%
	長野県	5 7.8%	17 26.5%	14 21.9%	0 0.0%	28 43.8%	64 100.0%
	静岡県	10 14.1%	17 23.9%	14 19.7%	5 7.0%	25 35.2%	71 100.0%
	沖縄県	9 11.7%	26 33.8%	14 18.2%	1 1.3%	27 35.1%	77 100.0%
合計		36 10.9%	96 29.2%	59 17.9%	11 3.3%	127 38.6%	329 100.0%

表3.4 現在の家族構成

		現在の家族構成				合計
		ひとり暮 らし	夫婦のみ	子どもと 同居	その他	
移住希 望先	北海道	12 22.2%	18 33.3%	22 40.7%	2 3.7%	54 100.0%
	千葉県	11 17.5%	26 41.3%	20 31.7%	6 9.5%	63 100.0%
	長野県	7 10.9%	27 42.2%	23 35.9%	7 10.9%	64 100.0%
	静岡県	11 15.5%	40 56.3%	16 22.5%	4 5.6%	71 100.0%
	沖縄県	12 15.6%	32 41.6%	28 36.4%	5 6.5%	77 100.0%
合計		53 16.1%	143 43.5%	109 33.1%	24 7.3%	329 100.0%

婦のみ」を続ける人が多いが、一部に「ひとり暮らし」で移住する人がいる。現在の「子どもと同居」は「夫婦のみ」で移住する人が多いが、一部に「子どもと同居」で移住したり、「ひとり暮らし」で移住する人がいる。移住先によって差は見られない【表3.5】。

表3.5 移住先で想定する家族構成

移住希望先			移住後の家族構成			
			ひとり暮らし	夫婦のみ	子どもと同居	その他
北海道	現在の家族構成	ひとり暮らし	8	2	0	2
		夫婦のみ	1	17	0	0
		子どもと同居	3	12	4	3
		その他	1	0	0	1
	合計		13	31	4	6
千葉県	現在の家族構成	ひとり暮らし	11	0	0	0
		夫婦のみ	1	24	1	0
		子どもと同居	2	11	7	0
		その他	2	2	0	2
	合計		16	37	8	2
長野県	現在の家族構成	ひとり暮らし	5	1	0	1
		夫婦のみ	1	24	0	2
		子どもと同居	3	15	5	0
		その他	1	1	1	4
	合計		10	41	6	7
静岡県	現在の家族構成	ひとり暮らし	8	1	0	2
		夫婦のみ	3	36	1	0
		子どもと同居	2	11	3	0
		その他	0	2	0	2
	合計		13	50	4	4
沖縄県	現在の家族構成	ひとり暮らし	10	2	0	0
		夫婦のみ	1	30	0	1
		子どもと同居	5	18	3	2
		その他	1	2	0	2
	合計		17	52	3	5

現在の世帯年収は、「200万円未満」17人（5.9%）、「200～400万円未満」63人（22.0%）、「400～600万円未満」71人（24.8%）、「600～800万円未満」42人（14.7%）、「800～1000万円未満」42人（14.7%）、「1000～1500万円未満」39人（13.6%）、「1500万円以上」12人（4.2%）。「400～600万円未満」が1/4、「200～400万円未満」が2割であり、多様である。移住希望先によって差は見られない【表3.6】。

表3.6 現在の世帯年収

		現在の世帯年収							合計
		200万円未満	200～400万円未満	400～600万円未満	600～800万円未満	800～1000万円未満	1000～1500万円未満	1500万円以上	
移住希望先	北海道	1 2.1%	15 31.3%	11 22.9%	6 12.5%	7 14.6%	5 10.4%	3 6.3%	48 100.0%
	千葉県	5 9.1%	8 14.5%	12 21.8%	9 16.4%	9 16.4%	10 18.2%	2 3.6%	55 100.0%
	長野県	5 8.5%	13 22.0%	15 25.4%	9 15.3%	7 11.9%	8 13.6%	2 3.4%	59 100.0%
	静岡県	2 3.4%	15 25.9%	13 22.4%	10 17.2%	10 17.2%	5 8.6%	3 5.2%	58 100.0%
	沖縄県	4 6.1%	12 18.2%	20 30.3%	8 12.1%	9 13.6%	11 16.7%	2 3.0%	66 100.0%
合計		17 5.9%	63 22.0%	71 24.8%	42 14.7%	42 14.7%	39 13.6%	12 4.2%	286 100.0%

移住後の世帯年収予測は、「200万円未満」75人(22.8%)、「200～400万円未満」134人(40.7%)、「400～600万円未満」75人(22.8%)、「600～800万円未満」25人(7.6%)、「800～1000万円未満」8人(2.4%)、「1000～1500万円未満」7人(2.1%)、「1500万円以上」5人(1.5%)。現在の世帯年収よりも下がり、「200～400万円未満」が4割、「200万円未満」と「400～600万円未満」がそれぞれ2割である。移住希望先によって差は見られない【表3.7】。

表3.7 移住後の世帯年収予測

		移住後の世帯年収予測							合計
		200万円未満	200～400万円未満	400～600万円未満	600～800万円未満	800～1000万円未満	1000～1500万円未満	1500万円以上	
移住希望先	北海道	10 18.5%	24 44.4%	12 22.2%	6 11.1%	0 0.0%	1 1.9%	1 1.9%	54 100.0%
	千葉県	18 28.6%	22 34.9%	13 20.6%	5 7.9%	1 1.6%	3 4.8%	1 1.6%	63 100.0%
	長野県	12 18.8%	22 34.4%	21 32.8%	7 10.9%	2 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	64 100.0%
	静岡県	12 16.9%	36 50.7%	12 16.9%	3 4.2%	4 5.6%	2 2.8%	2 2.8%	71 100.0%
	沖縄県	23 29.9%	30 39.0%	17 22.1%	4 5.2%	1 1.3%	1 1.3%	1 1.3%	77 100.0%
合計		75 22.8%	134 40.7%	75 22.8%	25 7.6%	8 2.4%	7 2.1%	5 1.5%	329 100.0%

3.3 移住の理由、移住後のライフスタイル等

移住の理由は、329人の複数回答で「働き方を変えたい」49人（14.9%）、「子どもを育てる環境を変えたい」3人（0.9%）、「都市部の騒々しい暮らしがあわない」76人（23.1%）、「広々とした住宅を確保したい」97人（29.5%）、「リタイヤ・定年退職をしたので都市部に暮らす必要がなくなる」139人（42.2%）、「自然豊かな環境で暮らしたい」240（72.9%）、「週末滞在や二地域居住などで気に入った場所に定住したい」81人（24.6%）、「自分（または配偶者）の生まれ育った地域に戻りたい」41人（12.5%）、「自分（または配偶者）が高齢期になったとき、都心部では医療・介護サービスが十分でなくなるのが心配である」28人（8.5%）、「親（配偶者の親含む）等の介護をしたい・する必要がある」15人（4.6%）、「家業を継ぎたい・継ぐ必要がある」2人（0.6%）、「家族の変化に対応したい」16人（4.9%）、「その他」17人（5.2%）、「特にない」9人（2.7%）。「自然豊かな環境で暮らしたい」が7割であり、「リタイヤ・定年退職をしたので都市部に暮らす必要がなくなる」が4割で続く。

移住希望先別に見ると、「自分（または配偶者）の生まれ育った地域に戻りたい」が北海道で多く、沖縄県で少なくなっている。ただし効果量が小さく違いはわずかである（ $x^2=15.93$, $df=4$, $p<0.05$, Cramer's $V=0.22$, $1-\beta=0.91$ 、残差分析で北海道 $p<0.01$ 、沖縄県 $p<0.05$ ）。「自分（または配偶者）が高齢期になったとき、都心部では医療・介護サービスが十分でなくなるのが心配である」が静岡県で多くなっているが効果量が小さく、あまり違いはない（ $x^2=9.84$, $df=4$, $p<0.05$, Cramer's $V=0.17$, $1-\beta=0.69$ 、残差分析で $p<0.05$ ）。「親（配偶者の親含む）等の介護をしたい・する必要がある」は北海道で多くなっている。ただし効果量が小さく違いはわずかである（ $x^2=14.09$, $df=4$, $p<0.01$, Cramer's $V=0.21$, $1-\beta=0.72$ 、残差分析で $p<0.01$ ）【表3.8】。

表3.8 移住したい理由

		移住希望先				
		北海道 (n=54)	千葉県 (n=63)	長野県 (n=64)	静岡県 (n=71)	沖縄県 (n=77)
移住したい理由	働き方を変えたい	10 18.5%	7 11.1%	9 14.1%	8 11.3%	15 19.5%
	移住した子どもを育てる環境を変えたい	0 0.0%	0 0.0%	1 1.6%	1 1.4%	1 1.3%
	都市部の騒々しい暮らしがあわない	13 24.1%	10 15.9%	17 26.6%	18 25.4%	18 23.4%
	広々とした住宅を確保したい	19 35.2%	22 34.9%	16 25.0%	18 25.4%	22 28.6%
	リタイア・定年退職をしたので都市部に暮らす必要がなくなる	21 38.9%	34 54.0%	24 37.5%	24 33.8%	36 46.8%
	自然豊かな環境で暮らしたい	38 70.4%	50 79.4%	49 76.6%	50 70.4%	53 68.8%
	週末滞在や二地域居住などで気に入った場所に定住したい	9 16.7%	14 22.2%	21 32.8%	20 28.2%	17 22.1%
	自分（または配偶者）の生まれ育った地域に戻りたい	15 27.8%	6 9.5%	8 12.5%	8 11.3%	4 5.2%
	自分（または配偶者）が高齢期になったとき、都心部では介護・医療サービスが十分でなくなるのが心配である	2 3.7%	4 6.3%	8 12.5%	11 15.5%	3 3.9%
	親（配偶者の親含む）等の介護をしたい／する必要がある	7 13.0%	0 0.0%	4 6.3%	3 4.2%	1 1.3%
	家業を継ぎたい／継ぐ必要がある	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.4%	1 1.3%
	家族構成の変化に対応したい	2 3.7%	4 6.3%	3 4.7%	5 7.0%	2 2.6%
	その他	2 3.7%	2 3.2%	4 6.3%	2 2.8%	7 9.1%
	特にない	2 3.7%	2 3.2%	1 1.6%	2 2.8%	2 2.6%

移住後の希望するライフスタイルは329人の複数回答で、「農業・漁業・林業等の地域産業で生計をたてたい」16人(4.9%)、「農業・漁業・林業等を手伝いたい」47人(14.3%)、「観光業など地域にかかわる仕事に就きたい」45人(13.7%)、「フルタイムな仕事につきたい」24人(7.3%)、「短い勤務時間な仕事につきたい」63人(19.1%)、「在宅ワークをしたい」58人(17.6%)、「起業したい」21人(6.4%)、「趣味やレジャーを楽しみたい」191人(58.1%)、「自然を身近に感じて暮らしたい」217人(66.0%)、「家族や友人との時間を大切にしたい」75人(22.8%)、「地域の人と深くかかわりたい」86人(26.1%)、「自分のスキルを地域貢献に使いたい」57人(17.3%)、「その他」3人(0.9%)、「特にない」14人(4.3%)。「自然を身近に感じて暮らしたい」が7割近く、「趣味やレジャーを楽しみたい」が6割である。移住希望先による差は見られない【表3.9】。希望する移住先に関わらず、東京圏から高齢期に移住する人気の移住先において後のライフスタイルは同じである。

移住先を探す決め手となるのは329人の複数回答で「移住に関する自治体の支援制度がある」69人(21.0%)、「条件にあった良い物件が見つかりやすい」123人(37.4%)、「仕事が見つかりやすい」35人(10.6%)、「生活環境がある程度整っている」124人(37.7%)、「医療・介護に関する施設・サービスが充実している」64人(19.5%)、「地域の住民同士の交流が盛んである」21人(6.4%)、「知り合いがいる」57人(17.3%)、「都市部から遠すぎない」112人(34.0%)、「特にない」26人(7.9%)。「生活環境がある程度整っている」、「条件にあった良い物件が見つかりやすい」がそれぞれ4割であり、「都市部から遠すぎない」が3割である。利便性が求められている。

「移住に関する自治体の支援制度がある」は北海道で多く、千葉県で少なくなっている。ただし、効果量は小さく違いはわずかである($\chi^2=15.45$, $df=4$, $p<0.01$, Cramer's $V=0.22$, $1-\beta=0.77$, 残差分析で北海道 $p<0.01$ 、千葉 $p<0.05$)。「条件にあった良い物件が見つかりやすい」は千葉県で多く、静岡県で少なくなっているが、効果量が少なくあまり違いはない($\chi^2=9.75$, $df=4$, $p<0.05$ 、Cramer's $V=0.17$, $1-\beta=0.69$, 残差分析でともに $p<0.05$)。「都市部から遠すぎない」は千葉県、静岡県で多く、沖縄県、北海道で少なくなっている($\chi^2=45.63$, $df=4$, $p<0.01$, Cramer's $V=0.37$, $1-\beta=1.00$, 残差分析でいずれも $p<0.01$)。利便性の点で移住候補先は異なっている【表3.10】。

表3.9 移住後の希望するライフスタイル

		移住希望先				
		北海道 (n=54)	千葉県 (n=63)	長野県 (n=64)	静岡県 (n=71)	沖縄県 (n=77)
移住後の 希望する ライフス タイル	農業・漁業・林業等の地 域産業で生計をたてたい	3 5.6%	0 0.0%	4 6.3%	3 4.2%	6 7.8%
	農業・漁業・林業等を手 伝いたい	8 14.8%	11 17.5%	13 20.3%	8 11.3%	7 9.1%
	観光業など地域にかかわ る仕事に就きたい	10 18.5%	4 6.3%	9 14.1%	11 15.5%	11 14.3%
	フルタイムな仕事に就き たい	4 7.4%	7 11.1%	6 9.4%	5 7.0%	2 2.6%
	短い勤務時間な仕事に就 きたい	9 16.7%	11 17.5%	14 21.9%	14 19.7%	15 19.5%
	在宅ワークをしたい	9 16.7%	10 15.9%	15 23.4%	12 16.9%	12 15.6%
	起業したい	3 5.6%	5 7.9%	4 6.3%	5 7.0%	4 5.2%
	趣味やレジャーを楽しみ たい	28 51.9%	39 61.9%	41 64.1%	37 52.1%	46 59.7%
	自然を身近に感じて暮ら したい	33 61.1%	47 74.6%	42 65.6%	44 62.0%	51 66.2%
	家族や友人との時間を大 切にしたい	18 33.3%	11 17.5%	14 21.9%	11 15.5%	21 27.3%
	地域の人と深くかわり たい	14 25.9%	16 25.4%	21 32.8%	11 15.5%	24 31.2%
	自分のスキルを地域貢献 に使いたい	9 16.7%	11 17.5%	13 20.3%	10 14.1%	14 18.2%
	その他	0 0.0%	1 1.6%	1 1.6%	1 1.4%	0 0.0%
	特にない	5 9.3%	1 1.6%	1 1.6%	2 2.8%	5 6.5%

表3.10 移住先を探す決め手

		移住希望先				
		北海道 (n=54)	千葉県 (n=63)	長野県 (n=64)	静岡県 (n=71)	沖縄県 (n=77)
決め手	移住に関する自治体の支援制度がある	20 37.0%	7 11.1%	17 26.6%	10 14.1%	15 19.5%
	条件にあった良い物件が見つかりやすい	20 37.0%	32 50.8%	22 34.4%	18 25.4%	31 40.3%
	仕事が見つかりやすい	7 13.0%	7 11.1%	7 10.9%	5 7.0%	9 11.7%
	生活環境がある程度整っている	21 38.9%	30 47.6%	24 37.5%	22 31.0%	27 35.1%
	医療・介護に関する施設・サービスが充実している	8 14.8%	19 30.2%	10 15.6%	9 12.7%	18 23.4%
	地域の住民同士の交流が盛んである	3 5.6%	6 9.5%	2 3.1%	5 7.0%	5 6.5%
	知り合いがいる	12 22.2%	9 14.3%	16 25.0%	7 9.9%	13 16.9%
	都市部から遠すぎない	9 16.7%	37 58.7%	22 34.4%	34 47.9%	10 13.0%
	特になし	3 5.6%	3 4.8%	5 7.8%	3 4.2%	12 15.6%

3.4 移住先の情報収集

移住先の情報収集は329人の複数回答で「移住先にいる知人・友人からの紹介」63人（19.1%）、「移住先にいる家族・親族からの情報」35人（10.6%）、「移住を支援するHPの情報」80人（24.3%）、「移住した方のブログや紹介記事等」69人（21.0%）、「不動産（土地や住宅）に関する情報誌からの情報」56人（17.0%）、「それ以外の移住に関する雑誌の情報」39人（11.9%）、「移住先の自治体が発行しているチラシやパンフレット」63人（19.1%）、「公的な組織・機関による情報提供や相談・助言」42人（12.8%）、「民間の組織・機関による情報提供や相談・助言」26人（7.9%）、「その他」16人（4.9%）、「とくに何の情報なども活用していない」100人（30.4%）。

「移住先にいる知人・友人からの紹介」が静岡県で少ないが、効果量が小さく違いはあまりない（ $\chi^2=10.58$ 、 $df=4$ 、 $p<0.05$ 、Cramer's $V=0.18$ 、 $1-\beta=0.74$ 、残差分析で $p<0.05$ ）。「移住を支援するHPの情報」が北海道で多いが、効果量が小さく

違いはわずかである ($x^2=11.99$ 、 $df=4$ 、 $p<0.05$ 、Cramer's $V=0.19$ 、 $1-\beta=0.80$ 、残差分析で $p<0.01$)。「とくに何の情報なども活用していない」は北海道で少なく沖縄で多い。ただし効果量が小さく違いはわずかである ($x^2=11.87$ 、 $df=4$ 、 $p<0.05$ 、Cramer's $V=0.19$ 、 $1-\beta=0.80$ 、残差分析でともに $p<0.05$)【表3.11】。

表3.11 移住の情報収集先

		移住希望先				
		北海道 (n=54)	千葉県 (n=63)	長野県 (n=64)	静岡県 (n=71)	沖縄県 (n=77)
情報収集先	移住先にいる知人・友人からの紹介	15 27.8%	10 15.9%	18 28.1%	7 9.9%	13 16.9%
	移住先にいる家族・親族からの情報	9 16.7%	4 6.3%	8 12.5%	5 7.0%	9 11.7%
	移住を支援するHPの情報	21 38.9%	10 15.9%	19 29.7%	17 23.9%	13 16.9%
	移住した方のブログや紹介記事等	12 22.2%	13 20.6%	18 28.1%	10 14.1%	16 20.8%
	不動産（土地や住宅）に関する情報誌からの情報	4 7.4%	15 23.8%	9 14.1%	15 21.1%	13 16.9%
	それ以外の移住に関する雑誌の情報	6 11.1%	4 6.3%	13 20.3%	7 9.9%	9 11.7%
	移住先の自治体が発行しているチラシやパンフレット	11 20.4%	12 19.0%	11 17.2%	15 21.1%	14 18.2%
	公的な組織・機関による情報提供や相談・助言	10 18.5%	4 6.3%	7 10.9%	8 11.3%	13 16.9%
	民間の組織・機関による情報提供や相談・助言	6 11.1%	3 4.8%	4 6.3%	6 8.5%	7 9.1%
	その他	2 3.7%	5 7.9%	2 3.1%	5 7.0%	2 2.6%
	とくに何の情報なども活用していない	9 16.7%	17 27.0%	16 25.0%	26 36.6%	32 41.6%

3.5 定住意識

現在、住んでいる住宅は「戸建住宅・持ち家」155人（47.1%）、「戸建住宅・借家」34人（10.3%）、「共同住宅・持ち家」72人（21.9%）、「共同住宅・借家」68人（20.7%）。「戸建住宅・持ち家」が半数であり、「共同住宅・持ち家」と合わせると7割である。

「戸建住宅・持ち家」と「共同住宅・持ち家」の人に移住後、現在の住んでいる住宅をどうするか尋ねると、「売却したい」61人（26.9%）、「賃貸として収入にしたい」53人（23.3%）、「空き家のままにしておきたい」27人（11.9%）、「親族等に貸したい」16人（7.0%）、「その他」12人（5.3%）、「特に考えていない」58人（25.6%）。「売却したい」、「賃貸として収入にしたい」がそれぞれ1/4前後であり、「特に考えていない」も1/4である。移住希望先によって差は見られない【表3.12】。

表3.12 現在の持ち家の移住後の対応

		移住希望先					合計
		北海道	千葉県	長野県	静岡県	沖縄県	
現在の 持ち家 の対応	売却したい	7 21.2%	13 26.0%	12 27.3%	11 23.4%	18 34.0%	61 26.9%
	賃貸として収入にしたい	8 24.2%	10 20.0%	8 18.2%	14 29.8%	13 24.5%	53 23.3%
	空き家のままにしておきたい	4 12.1%	6 12.0%	5 11.4%	3 6.4%	9 17.0%	27 11.9%
	親族等に貸したい	3 9.1%	3 6.0%	4 9.1%	3 6.4%	3 5.7%	16 7.0%
	その他	0 0.0%	4 8.0%	4 9.1%	3 6.4%	1 1.9%	12 5.3%
	特に考えていない	11 33.3%	14 28.0%	11 25.0%	13 27.7%	9 17.0%	58 25.6%
	合計	33 100.0%	50 100.0%	44 100.0%	47 100.0%	53 100.0%	227 100.0%

移住先で暮らす期間は「ずっとその移住先で暮らしたい」179人（54.4%）、「自分（または配偶者）が要介護状態に（日常的に介護・医療サービスが必要と）なる前まで暮らしたい」84人（25.5%）、「自分（または配偶者）が高齢期（65歳以上を想定）にさしかかる前まで暮らしたい」8人（2.4%）、「その他」5人（1.5%）、「わからない」53人（16.1%）。

生涯の定住を考えている人が半数であり、元気なうちだけ暮らす人が1/4である。移住希望先によって差は見られない【表3.13】。

表3.13 移住先で暮らす期間

		移住希望先					合計
		北海道	千葉県	長野県	静岡県	沖縄県	
移住先で暮らす期間	ずっとその移住先で暮らしたい	33 61.1%	28 44.4%	38 59.4%	33 46.5%	47 61.0%	179 54.4%
	自分（または配偶者）が要介護状態に（日常的に介護・医療サービスが必要と）なる前まで暮らしたい	10 18.5%	23 36.5%	14 21.9%	19 26.8%	18 23.4%	84 25.5%
	自分（または配偶者）が高齢期（65歳以上を想定）にさしかかる前まで暮らしたい	3 5.6%	1 1.6%	0 0.0%	2 2.8%	2 2.6%	8 2.4%
	その他	1 1.9%	2 3.2%	1 1.6%	1 1.4%	0 0.0%	5 1.5%
	わからない	7 13.0%	9 14.3%	11 17.2%	16 22.5%	10 13.0%	53 16.1%
	合計	54 100.0%	63 100.0%	64 100.0%	71 100.0%	77 100.0%	329 100.0%

移住にあたって住民票をうつすかどうか尋ねると、「移住先に移す」195人(59.3%)、「現在の居住地から移さない」54人(16.4%)、「わからない」80人(24.3%)。「移住先に移す」が6割である。移住希望先によって差は見られない【表3.14】。

つまり、定住意識について移住候補先で差は見られない。

表3.14 移住と住民票

		移住希望先					合計
		北海道	千葉県	長野県	静岡県	沖縄県	
移住する 際の住民 票の移動	移住先に移す	38 70.4%	38 60.3%	33 51.6%	42 59.2%	44 57.1%	195 59.3%
	現在の居住地から 移さない	10 18.5%	10 15.9%	14 21.9%	11 15.5%	9 11.7%	54 16.4%
	わからない	6 11.1%	15 23.8%	17 26.6%	18 25.4%	24 31.2%	80 24.3%
合計		54 100.0%	63 100.0%	64 100.0%	71 100.0%	77 100.0%	329 100.0%

3.6 まとめ

(1) 移住後の暮らし

移住後に想定する家族構成は「夫婦のみ」が6割、「ひとり暮らし」が2割。現在の家族構成から多少変わり、現在「子どもと同居」している人の多くは「夫婦のみ」で移住を考えている。

移住後の世帯年収予測は「200～400万円未満」前後が多い。

移住後に希望するライフスタイルは「自然を身近に感じて暮らしたい」、「趣味やレジャーを楽しみたい」が多い。自然志向であるが、他方で移住先を探す決め手となるのは利便性である。

移住後、半数が生涯をすごす、1/4は元気な間だけ暮らすことを考えている。住民票は6割が移住先にうつすつもりであり、現在の東京圏の持ち家は売却、賃貸等が考えられている。

(2) 北海道を選択する理由

移住後の暮らしのうち利便性以外は、移住希望先によって大きな違いは見られない。つまり、北海道であっても、千葉県、長野県、静岡県、沖縄県のいずれでもあっても、東京圏から高齢期に移住する人たちの、移住後に想定する生活は利便性以外はおおむね変わらない。

わずかな違いを見ていくと、Uターンが北海道で若干多い。東京圏での将来の高齢者サービスの心配をしている人は静岡県を目指している。北海道は移住HPを見て、自治体の移住支援制度が決め手となっている。逆に沖縄はとくに何の情報も活用していない人が多くなっている。

利便性が良くない中で、Uターンを含め、移住HPがきっかけとなり、自治体の移住支援制度が後押しをして、北海道への移住が選択されているのである。

4. 高齢期の北海道移住者インタビュー及びインタビュー記事の分析

4.1 調査方法

北海道の中核市において高齢期に移住した人に対して、夏と冬の2回にわたりグループインタビューを行った。当該市はJRの特急が停車する。夏の平均気温は20℃、冬は-2℃程度であり、北海道としては積雪量が比較的少ないところである。

対象者は9組、10人（事例3と4は夫妻である）【表4.1】。男性5人、女性5人。全員が60歳以上であり、60代8人、70代1人、80代1人である。家族構成は「ひとり暮らし」4人、「夫婦のみ」6人である。移住前は、同じ北海道2人、関東3人、中部3人、九州1人、海外1人である。移住してから1年未満2人、2～3年6人、4年以上2人である。

いずれもインタビュー前に調査目的、匿名化などについて説明し、同意を得た。さらに、個人が特定されないように事実を曲げない範囲での加工・匿名化をするなどの倫理的配慮を行った。質問内容は移住のきっかけ、住む前の準備、移住後の暮らし、移住後の評価、移住後の今後の暮らし等である。

加えて移住関連の冊子、webサイト、新聞特集から、高齢期に北海道各地に移住した人のインタビュー記事を収集した【巻末資料4.2】。

インタビュー及びインタビュー記事から、移住に関連する言葉を拾い出した。

なお、インタビューやインタビュー記事では移住先の地名等について話されているが、固有の地名に限定せず、移住先として北海道を選択した理由と意義を分析するため、地名を伏せて抽出した。

類似するものをまとめてコードとし、コード間の関係から複数のコードを集めてサブカテゴリーとし、さらにサブカテゴリー間の関係から複数のサブカテゴリーを集めてカテゴリー化した。

表4.1 インタビュー対象者

	年代・性別	家族構成	移住歴	移住形態
1	60代男性	夫婦のみ	関東から5年前に移住	Iターン
2	60代男性	夫婦のみ	関東から3年前に移住	妻がUターン
3	60代男性	夫婦のみ	北海道の道央から3年前に移住	
4	60代女性	夫婦のみ	北海道の道央から3年前に移住	
5	60代女性	夫婦のみ	中部から3年前に移住	Iターン
6	70代男性	ひとり暮らし	中部から3年前に移住	Uターン
7	80代女性	ひとり暮らし	九州から4年前に移住	Jターン
8	60代男性	ひとり暮らし	関東から2年前に移住	Jターン
9	60代女性	ひとり暮らし	海外から移住1年未満	Iターン
10	60代女性	夫婦のみ	中部から移住1年未満	夫がJターン

4.2 分析結果

5カテゴリー、16サブカテゴリー、46コードが抽出された【表4.3】。

カテゴリーを []、サブカテゴリーを < >、コードを 《 》、インタビューでの言葉を「 」として示す。

移住先として北海道を選択した理由の一つはUターンであり、《出身地である》ために退職後に戻ってきている。また、介護等で《親類が近くにいる》ところに移ってきたり、子ども等が老後の生活の安心をもたらすものとして考えられている。北海道は一つは〈知った土地・知り合いがいる〉ために、移住先として選択されている。

また、北海道は《風景や自然に親しみ》を感じたり、《自然体験や散策を楽しむ》ために、移住先として選択されている。「雄大な景色」、「豊かな自然」等の言葉があり、鮭の遡上やオオワシ等の観察が紹介されている。加えて、東日本大震

災等を踏まえて《災害が少ない》ことが考慮されている。〈北海道に特徴的な風景や自然〉が移住先の選択につながっているのである。

そして、北海道の《夏の涼しさ》が評価されている。冬は《除雪はそれほどでもない》、《冬も家の中は暖かい》という声もあるが、《除雪は大変》、《冬の生活になれない》という人もある。杉が少ないことから、花粉症等についての話もあり、《花粉症等が軽くなった》という人もいれば、《花粉症等は治らなかった》という人もいる。また、北海道は梅雨がないと言われているが《梅雨はあった》という声もある。〈北海道に特徴的な気温・気候〉が移住先の選択につながっている。

以上の〈知った土地・知り合いがいる〉、〈北海道に特徴的な風景や自然〉、〈北海道に特徴的な気温・気候〉は北海道にしかないものであり、[北海道に特徴的な気候、自然、風土や習慣]を評価したものである。

また、北海道は《食や水がおいしい》と話されており、移住者は〈食を楽しむ〉生活を送っている。また、《家庭菜園や農業がしたい》という声があり、「ガーデニングや野菜づくり」、「無農薬野菜を自給自足」等が楽しまれている。他方で、家庭農園や農業については《堆肥の匂いに悩む》人もいる。北海道は〈食を楽しむ〉、〈家庭農園や農業を楽しむ〉生活をおくりやすいところとして選択されているのである。

他に、絵画等の《芸術》、薪小屋の自作等の《日曜大工》、ジョギング等の《運動》、お花等の《習い事》で〈趣味を満喫〉されている。ただし、《イベントが少なく》、〈遊ぶ場所がない〉という人もいる。

町については、「大きすぎない街」であると考えられており、《都市規模が適正》だと評価されている。また「人混みから離れて暮らしたい」人にとって《閑静》な暮らしができる場所であり、〈静かに暮らす〉ことが選択されている。

加えて、《子どもが多く、にぎやか》なところもあり、〈子どもと暮らす〉ことも可能である。

以上の〈食を楽しむ〉、〈家庭菜園や農業を楽しむ〉、〈趣味を満喫〉しながら、〈イベントは少ない〉が〈静かに暮らす〉、希望する人は〈子どもと暮らす〉生活は[スローライフ]のイメージであり、北海道に特徴的なライフスタイルとして移住先の選択につながっている。

他方で、北海道は《交通の利便性が良い》ところもあれば、《交通の利便性等が

悪い》ところもある。また、《医療機関の利便性が良い》という声もあれば、逆に《医療機関の利便性が悪い》という意見もある。買物についても《買物の利便性が良い》という人もいれば、逆に《買物の利便性が悪い》という人もいる。公共施設でも《公共施設の利便性が良い》、《公共施設の利便性が悪い》と両面の評価がされている。〈利便性〉については、地域等によって多様な話がされている。また、《家賃が安い》ことが評価されている。

移住後に《地域に溶け込む》ために「交流会」に出たり、「町内会」に入る等、地域活動に参加されている。逆に《近所付き合いはしていない》という人もいる。《まわりの人のやさしい》という話がされており、「とても親切」、「暖かい」と評価されている。「観光ボランティア」等の《ボランティアをしている》人もいる。いずれも移住後の〈地域とのつながり〉に関することである。

また、移住後のハローワークでの就職活動等での《再就職》、ピザ屋等の《起業》について話されており、〈仕事〉も重要な要素となっている。

移住後の〈利便性〉、〈地域とのつながり〉、〈仕事〉は〔移住後の暮らしやすさ〕に関わることであり、北海道に限らず、移住先を選択する際に考慮されるものである。

また、移住者から見た町の様子を発信するような《情報発信》が行われており、《地域おこし協力隊》への応募をきっかけに北海道に移住した人もいる。〈地域おこしに参加〉するものであり、移住先を選択する際に〔地域おこし〕が考えられているのである。

移住にあたって、移住先を訪問したり、体験したり、家を探したりするが、《訪問時の相談》、《ちょっと暮らし体験・移住体験ツアー》という〈移住先の体験の支援〉や、家を建てる際の《建設会社の紹介》、《土地の無償譲渡》という〈土地や家の取得の支援〉が移住先を選択する際に手がかりとなっている。〔移住者支援がある〕ことが、一つは北海道を移住先として選択させているのである。

表4.3 インタビュー及びインタビュー記事の内容

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	インタビュー記事等の例（一部抜粋） ■：インタビュー、□：インタビュー記事
[北海道に特徴的な気候、自然、風土や習慣]	〈知った土地・知り合いがいる〉	《出身地である》	<p>■「子どもに引き取られて〇〇（移住前の地名）に行って、病気になってなおらず、病院で北海道生まれは北海道の方がと言われて〇〇（北海道の地名）に移ってきた」</p> <p>■「夫が〇〇（北海道の地名）の出身」</p> <p>■「北海道育ち」</p> <p>□「妻が〇〇（北海道の地名）の出身」</p> <p>□「もともと私は〇〇（北海道の地名）の出身」</p>
		《親類が近くにいる》	<p>■「姉がうつになり、今も〇〇（地名）に居るが、通うのが大変で〇〇（北海道の地名）に来た」</p> <p>■「家内の母親が介護が必要になって〇〇（北海道の地名）だったため、医療機関がここしかなかった」</p> <p>□「息子が生活している〇〇（北海道の地名）の近くで暮らせれば老後も安心と思ひ」</p> <p>□「〇〇（北海道の地名）に娘が住んでいること」</p>
	〈北海道に特徴的な風景や自然〉	《風景や自然に親しみ》	<p>■「〇〇（北海道の地名）に20年前くらいに来て、海の香りや言葉が〇〇（出身地）と似ていて、住んでみたいなと思って」</p> <p>■「毎日、海を見て、船が出るなあと思ったりして時間をつぶしている」</p> <p>□「北海道へ訪れたときに、飛行機の窓から見た雄大な景色に魅かれたから」</p> <p>□「老後は豊かな自然の中でゆっくり過ごしたいと言ひ続けていたんです」</p> <p>□「鮭の遡上やオオワシ、オジロワシの観察が身近でできます」</p>
		《自然体験や散策を楽しむ》	<p>□「山は近くにいくつもあり、早起きなんかしなくてもいけるのがいいですね」</p> <p>□「山菜や山葡萄を採りに出かけたり、溪流釣りをしたり」</p> <p>□「最近はずと毎日1時間ほどウォーキングをしています」</p>
		《災害が少ない》	<p>□「地震についても色々調べました。〇〇（北海道の地名）は大きな地震は殆どなく、また、海との距離もありますので津波の心配も少ない」</p> <p>□「災害の少ない町だと分かったのも移住を後押ししてくれました」</p>
	〈北海道に特徴的な気温・気候〉	《夏の涼しさ》	<p>■「暑くて生きていけない、将来、〇〇（北海道の地名）と以前から話していた」</p> <p>■「定年すぎたら暑い〇〇（移住前の地名）では嫌だ」と</p> <p>■「夏の暑さ」</p> <p>□「とにかく暑さが苦手だったので、涼しい場所に住むと</p>

			<p>決めていました</p> <p><input type="checkbox"/>「夏や本当に涼しく、クーラーなんていらぬ生活ですね」</p>
		《除雪もそれほどではない》	<p>■「雪がないのがすごく楽」</p> <p>■「こんなので〇〇（北海道の地名）の人は大変大変って雪投げしているけれど、こんなものかと思った」</p> <p>■「ここはまだ少ないからいいのね」</p> <p><input type="checkbox"/>「除雪も良くされているので、降雪日の少なかった昨シーズンは大きな問題はなかったです」</p>
		《除雪は大変》	<p>■「雪かきの経験がないのでマンションにした」</p> <p>■「雪以外、目をつぶれば住みよいところだと思う」</p> <p>■「除雪の仕方が下手くそだね」</p>
		《冬も家の中は暖かい》	<p>■「年がら年じゅう20度で変わらないですよ」</p> <p>■「朝起きて温度計を見たら、（移住前よりも）あたたかいよね」</p> <p><input type="checkbox"/>「家が丸ごと暖かいです」</p> <p><input type="checkbox"/>「冬は北海道の家の中の方が暖かい」</p>
		《冬の生活になれない》	<p>■「もう冬になるのかと落ち込みます、引っ越してきたのが冬だったので」</p> <p>■「メインストリートが除雪してないんだよ、信じられないよね」</p> <p>■「（冬でも家があたたかいので）四季がないんですよ、体に良くないんじゃないですか」</p> <p>■「氷で転ぶんですよ、上手な人はスケーティングでわかっていくもんね」</p> <p><input type="checkbox"/>「凍った路面にまだ慣れたとは言えませんね」</p> <p><input type="checkbox"/>「帰省中に水道管凍結など北国ならではの失敗も体験した」</p>
		《花粉症等が軽くなる》	<p>■「退職後に、妻が花粉症がひどくなり」</p> <p>■「引っ越してきて症状が軽くなりました」</p> <p><input type="checkbox"/>「先に暮らし始めた長女は、花粉症の症状が良くなったと言っていますね」</p> <p><input type="checkbox"/>「きれいな空気とストレスのない生活のおかげで、〇〇（移住前の地名）にいた時と違い、今は健康そのものです」</p>
		《花粉症等は治らなかった》	<p><input type="checkbox"/>「スギ花粉症とおさらばできるかと思っていたら、イネ科、キク科、土埃、様々なものに反応するようになったのが予想外でした」</p>
		《梅雨はあった》	<p><input type="checkbox"/>「北海道は梅雨がないというイメージはありますが、6月の天気はぐずついて、太陽を見ない日もあります」</p>
[スローライフ]	《食を楽しむ》	《食や水がおいしい》	<p>■「夫が魚が好きなので〇〇（北海道の地名）に住んでもいいなあと思って」</p> <p>■「移住してどうですかと聞かれることも多いが、食べ物はおいしいと答えます。他はまだわかりません」</p>

			<input type="checkbox"/> 「生産地に住むということはこんなにも美味しいものを毎日いただけるのだ！」 <input type="checkbox"/> 「都会と同じ値段では決して味わうことができない魚のおいしさ、鮮度の違いをはっきりと感じます」 <input type="checkbox"/> 「味の濃い美味しい野菜が食べられる」 <input type="checkbox"/> 「浄水器無しの水道水が飲めるなんてあちらでは考えられませんでした」
	〈家庭菜園や農業を楽しむ〉	《家庭菜園や農業がしたい》	<input checked="" type="checkbox"/> 「リンゴの木のオーナーになっていて、3人で1本持っている」 <input type="checkbox"/> 「ガーデニングや野菜づくりができる場所がいいと思い、〇〇（北海道の地名）への移住を決めました」 <input type="checkbox"/> 「涼しい気候のおかげで虫が少なく農業を使わないので無農薬野菜を自給自足」
		《堆肥の臭いに悩む》	<input type="checkbox"/> 「生堆肥の施肥料が春と秋にあり、独特、特殊な臭いに悩まされます」
	〈趣味を満喫〉	《芸術》	<input checked="" type="checkbox"/> 「トールペイントを長年仕事にしていたので、何かストレスがたまってたらしい」 <input checked="" type="checkbox"/> 「趣味で長唄としており、民宿で落語があるので出陣子をする予定がある」 <input type="checkbox"/> 「こっちに来てから自己流ですが、絵も描きはじめました」
		《日曜大工》	<input type="checkbox"/> 「見よう見真似で薪小屋も自作してしまいました」
		《運動》	<input checked="" type="checkbox"/> 「パークゴルフがさかんなんだ。150円くらいでまわれる」 <input type="checkbox"/> 「ミルクロードマラソンや北海道マラソンに出場しました」 <input type="checkbox"/> 「私は町内をジョギング、妻は町営の温泉プールでスイミングと運動もしています」
		《習い事》	<input type="checkbox"/> 「先生のお人柄に惚れて、お花の稽古をはじめます」
	〈遊ぶ場所がない〉	《イベントが少ない》	<input checked="" type="checkbox"/> 「コンサートとかね、そういうイベントが少ないね」
	〈静かに暮らす〉	《都市規模が適正》	<input type="checkbox"/> 「〇〇（北海道の地名）はほどよい大きさのまちで静かで暮らしやすい」 <input type="checkbox"/> 「大きすぎない街であることが〇〇（北海道の地名）の魅力ではないでしょうか」
		《閑静》	<input type="checkbox"/> 「いずれは人混みから離れて暮らしたいという多いがありました」 <input type="checkbox"/> 「街が静かです」
	〈子どもと暮らす〉	《子どもが多くて、にぎやか》	<input type="checkbox"/> 「一区画に十数人の子ども達がいる、いつも明るく賑わっています」
[移住後の暮らしやすさ]	〈利便性〉	《交通の利便性が良い》	<input checked="" type="checkbox"/> 「〇〇（移住前の地名）では1人1台持っていたんです。そんなに使わないだろうと私の分は処分してきました」

		<ul style="list-style-type: none"> ■「交通が便利で買物や病院に歩いて行ける」 □「空港、鉄道へのアクセスの良さ」 □「空港が近く、列車やバスが通っているのがいい」 □「田舎の中でも立地がいいんです」
	《交通の利便性等が悪い》	<ul style="list-style-type: none"> ■「〇〇（北海道の地名）ってバスののり方がよく分からない。ずっとまわって駅に行ったりする」 ■「交通マナーめっちゃくちゃだからね。駐車違反はどこでもとめるからね」 □「交通マナーが良くないですね、強引な方が多いかな」 □「車の免許を取ったんです。こっちでは車に乗れた方がいいと思って」
	《医療機関の利便性が良い》	<ul style="list-style-type: none"> ■「医療機関はこちらの方があるしね」 □「3つの総合病院があって医療機関に選択肢があることは大きな決め手ですね」 □「大きな病院があり安心しました」
	《医療機関の利便性が悪い》	<ul style="list-style-type: none"> □「もし毎週とか頻繁に通院しなければならない病気になったら、引っ越しや入院も考えているよ」 □「皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科が近隣にないので、〇〇（地名）まで行かないとならないのが不便」
	《買物の利便性が良い》	<ul style="list-style-type: none"> ■「買物は特に困っていない」 ■「買物は住んでいるところが便利なところなので」 ■「移住してすぐに自転車買いました。普通ので良かったので折り畳みを」 □「普段の買い物は市内にあるお店でしています」
	《買物の利便性が悪い》	<ul style="list-style-type: none"> □「買物の不便さも織り込み済み」
	《公共施設の利便性が良い》	<ul style="list-style-type: none"> ■「施設が揃ってますね」 □「体育館などの公共施設も充実しています。プール・図書館・町内スキー場等、大いに活用しています」
	《公共施設の利便性が悪い》	<ul style="list-style-type: none"> □「都市銀行の窓口が道内にはとても少ないです」
	《生活費がかからない》	<ul style="list-style-type: none"> ■「家賃は東京の半額」
	《地域とのつながり》	<ul style="list-style-type: none"> ■「近所とは仲が良い、もらいものをしたりしている」 ■「うちは交流会ありますよ」 ■「1か月ですぐ仲良くなった」 □「都会で暮らすより社会的になったと思います」 □「地元の〇〇小PTAにも入会するなど地域に溶け込み、気負いなく第二の人生をおう歌している」 □「町内会にも入りました。ご近所様から町のことや地域のことなど、色々教えていただいています」
	《近所付き合いはしていない》	<ul style="list-style-type: none"> ■「皆さん近所とはどうしてるの、挨拶なんかしないよ」 ■「(表札に)名前が書いてないんです。誰が住んでいるかわからないんです」

		《まわりの人がやさしい》	<input checked="" type="checkbox"/> 「旅行して3泊居なかったんですよ、新聞止めてなかったんですよ、死んだと思われて」 <input type="checkbox"/> 「皆さん、とても親切ですが、お節介ではないんですね」 <input type="checkbox"/> 「予想外だったことは、人が親切で暖かいこと」 <input type="checkbox"/> 「人々の人柄の良さや気持ちの温かさ」
		《ボランティアをしている》	<input checked="" type="checkbox"/> 「美術館でボランティアをしている」 <input checked="" type="checkbox"/> 「着付けのボランティアに行った」 <input type="checkbox"/> 「おもてなしボランティア、〇〇（北海道の地名）観光案内人などのボランティアに参加しています」 <input type="checkbox"/> 「多くの旅行の経験を活かして観光ボランティアもしています」
		《移住者の会に参加している》	<input checked="" type="checkbox"/> 「いろいろなタイプのお友達とも出会いました。私を受け止めてくださった方々を何かあったら乱用して」 <input checked="" type="checkbox"/> 「移住者の会に入っている」
	《仕事》	《再就職》	<input checked="" type="checkbox"/> 「年金暮らしだがリクルート中」 <input checked="" type="checkbox"/> 「寒くなる前にハローワークに行かなきゃと思っている」 <input type="checkbox"/> 「シルバー人材センターの仕事に加わる事により、〇〇（北海道の地名）の街や家庭を知ることができました」
		《起業》	<input type="checkbox"/> 「ピザで町おこしがしたかったんですよ」 <input type="checkbox"/> 「大工さんと相談しながらカフェを建てた」
[地域おこし]	《地域おこしに参加》	《情報発信》	<input type="checkbox"/> 「町が開設したブログポータルサイトで、移住者から見た町の様子を発信」 <input type="checkbox"/> 「移住者による〇〇（北海道の地名）ガイドを発刊しました」
		《地域おこし協力隊》	<input type="checkbox"/> 「地域おこし協力隊の募集を知り、応募したのがきっかけ」 <input type="checkbox"/> 「町おこしにも協力したいと思って地域おこし協力隊に応募しました」
[移住者支援がある]	《移住先の体験の支援》	《訪問時の相談》	<input type="checkbox"/> 「〇〇市（北海道の地名）ではオーダーメイドツアーをやっていることを知り、市役所の方に街の中を案内してもらいました」 <input type="checkbox"/> 「自分たちで役場に連絡を取り、町に下見に行った」
		《ちょっと暮らし体験・移住体験ツアー》	<input type="checkbox"/> 「町が受け入れている短期滞在には夏と冬の両方の季節に参加」 <input type="checkbox"/> 「町のホームページで移住体験ツアーを知り、秋・冬2回参加しました」
	《土地や家の取得の支援》	《建設会社の紹介》	<input type="checkbox"/> 「木造の山小屋風の家を建てたいという意向を町役場の担当者に伝えると、地元の建設会社を紹介してくれた」
		《土地の無償譲渡》	<input type="checkbox"/> 「無償分譲地も魅力的でした」 <input type="checkbox"/> 「移住希望者向けの土地の無償分譲でした」

4.3 まとめ

インタビュー及びインタビュー記事等の分析からは、Uターン、雄大な風景や豊かな自然、夏の涼しさ等の〔北海道に特徴的な気候、自然、風土や習慣〕、食を楽しみ、家庭菜園や農業を楽しみ、趣味を満喫する等の〔スローライフ〕が移住先の選択につながっていることがわかった。交通や買物の利便性、地域とのつながり、仕事という〔移住後の暮らしやすさ〕は北海道に限らず、いずれの移住先においても考慮される要因であろう。地域おこし協力隊等の〔地域おこし〕が北海道への移住のきっかけになっている人もおり、移住時の訪問、体験、家や土地の取得等への〔移住者支援がある〕ことが移住につながっている人もいた。

二次分析にあたり東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター SSJデータアーカイブから「地方移住に関するアンケート調査, 2013」(三菱総合研究所)の個票データの提供を受けている。

本研究は、科研費 基盤研究C 2017~2019年度「北海道における日本版CCRCの成果評価 - 東京圏高齢者の移住構想の事例分析」(研究代表者 大橋美幸)を受けている。

文献

- ふるさと回帰支援センター (2017) 移住希望地域ランキング2016、<http://www.furusato-kaiki.net/wp/wp-content/uploads/2017/02/8fe84c8ab9b3a5c38c828d108c75dc43.pdf> (2017年9月18日確認)
- 北海道 (2009) 『北海道への移住・交流促進に向けた意識調査報告書【概要版】』
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/ckk/grp/04/H21tyousa.pdf> (2017年9月27日確認)
- 北海道 (2017) 「東京都在住者の北海道「移住」意向と住民の「定住」意向」『北海道版生涯活躍のまちに関する取組指針(資料編)』
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/ckk/grp/04/H21tyousa.pdf> (2017年9月27日確認)
- 移住・交流推進機構 (2015) 移住するなら何県がいい?、<https://www.iju-join.jp/research/pdf/result.pdf> (2017年9月18日)
- インテージリサーチ (2015) 「Uターン、Jターン、Iターン 全国『1万人』の移住意向調査」
<http://www.intage-research.co.jp/news/20150511.pdf> (2017年9月27日確認)
- 内閣府 (2014) 東京在住者の移住に関する意向調査、<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/meeting/souseikaigi/h26-09-19-siryout2.pdf> (2017年9月18日確認)

- 日本創生会議（2015）「資料3 全国各地の医療・介護の余力を評価する」『東京圏高齢化危機回避戦略 一都三県連携し、高齢化問題に対応せよ』http://www.policycouncil.jp/pdf/prop04/prop04_3_150702.pdf（2017年9月27日確認）
- オウチーノ（2015a）退職後の移住に関するアンケート調査（50～65歳で首都圏在住、就労中の男女対象）、<http://www.o-uccino.jp/article/archive/kurashi/20151027-taisyokuijyuu/>（2017年9月18日確認）
- オウチーノ（2015b）「『高齢者の地方移住』意識調査」<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000016.000014097.html>（2017年9月27日確認）

資料4.2 高齢期の北海道移住者インタビュー記事等

移住先	出典
旭川	グランドワーク西神楽「森崎様インタビュー」 http://www.gwnkagura.com/nishikagura/ijyu/morisaki (2017年9月13日確認)
安平	安平町「移住者インタビュー」 http://www.town.abira.lg.jp/chiikishinko/ijuteiju (2017年9月13日確認)
伊達	北海道で暮らそう「移住者インタビュー：登山の趣味を生かした火山ガイドの活動で地域とともに生きる」 http://kuraso-hokkaido.jp/ccrc/ccrc_interview_01.html (2017年9月1日確認)
恵庭	ガーデンシティ Life えにわで暮らそう「住民インタビュー」 http://www.eniwan.org/interview/ (2017年9月13日確認)
函館	<ul style="list-style-type: none"> 北海道で暮らそう「生涯活躍のまち：みんなの声」http://www.hokkaido-iju.jp/ccrc/ccrc_interview_02.html (2017年9月16日確認) 全国移住ナビ「体験談を探す：函館市 阿久津さん」 https://www.ijunavi.soumu.go.jp/ijunavi/taikendan/search/detail?jsessionid=A918CCFF52B1B13752F5B2F3DA62A3FE (2017年9月16日確認)
浜頓別	宗谷地域移住情報ポータルサイトでっぺん移住「てっぺんバンザイ：浜頓別町」 http://www.teppen-iju.jp/interview/hamatonbetsu-1/ (2017年9月16日確認)
上士幌	<ul style="list-style-type: none"> 北海道で暮らそう「移住者インタビュー：地元の材料でつくったピザの美味しさで、上士幌のすばらしさをアピールしたい」http://kuraso-hokkaido.jp/ccrc/ccrc_interview_03.html (2017年9月1日確認) 北海道 十勝・上士幌町移住 com「移住者の声：VOICE06」 https://www.ijyuu.com/people/%e5%89%8d%e5%b3%b6%e3%80%80%e5%ae%9f%e3%81%95%e3%82%93/ (2017年9月13日確認)
上富良野	住んでみたい街 上富良野町「移住者の先輩に聞く」 http://www.town.kamifurano.hokkaido.jp/index.php?id=878 (2017年9月13日確認)
釧路	釧路市「移住者インタビュー：ケース2 うだるような都会の暑さから冷涼な快適空間へ」 http://www.city.kushiro.lg.jp/machi/ijyuu/ijyuu/00020170321.html (2017年9月13日確認)
中頓別	<ul style="list-style-type: none"> 宗谷町地域移住ポータルサイトでっぺん移住「てっぺんバンザイ：中頓別町 町のお風呂屋さん『黄金湯』再建のため移住した渡辺さん」http://www.teppen-iju.jp/interview/nakatonbetsu-1/ (2017年9月16日確認) 宗谷町地域移住ポータルサイトでっぺん移住「てっぺんバンザイ：中頓別町 第2の故郷、“なかとん”で暮らす沢尻さん」http://www.teppen-iju.jp/interview/nakatonbetsu-2/ (2017年8月16日確認)
清水	北海道十勝清水移住・定住情報「先輩の声：第二の人生がスタート」 http://shimizu-iju.com/index.php?%E5%85%88%E8%BC%A9%E3%81%AE%E5%A3%B0#ec9b2533 (2017年9月13日確認)
下川	下川町移住交流サポート web「移住者インタビューVOL.5 森の恵みを作品にする。『つくる』という人生を送る」 http://shimokawa-life.info/interview/interview-vol05/ (2017年9月13日確認)
新得	新得町「新得町に移住しました！：Tさん」 http://www.shintoku-town.jp/ijyu/ijyu-life/t-san/ (2017年9月13日確認)
壮瞥	壮瞥町の移住情報サイト「そうべつ人の暮らし 移住者インタビュー-story#05 農家カフェ&リラクゼーションほのぼの村 小山内登さん栄子さんご夫妻」 https://www.town.sobetsu.lg.jp/iju/koe/honobono.html (2017年9月16日確認)

弟子屈	弟子屈町「移住情報：移住者の声 移住者インタビュー(1)望んでいたのは利便性のない生活」 http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/04ijyu/07ijyuki/2009-0324-1648-15.html (2017年9月16日)
当別	当別町企画部情報課 (2005) 広報とうべつ平成 17 年 12 月号「現在を生きる 安住の地は当別 人の出会い、仲間を大切に」 22 頁
小樽	小樽市へようこそ「小樽を語る 野澤和男さん 桂子さん」 https://www.city.otaru.lg.jp/sisei_tokei/otaru/ijyu/ijyu8-kataru.html (2017年9月13日確認)
音更	十勝毎日新聞「第二の人生 何もないぜいたく」2009年1月1日掲載
浦河	朝日新聞デジタル「(上) 住宅快適『夏だけ浦河』」2016年2月3日掲載
八雲	八雲町「移住情報：移住の先輩に聞きました」 http://www.town.yakumo.lg.jp/modules/live/category0005.html (2017年9月16日確認)

